

緑の風 TIMES



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話 03-5315-0941
発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
毎月1回20日発行/一部20円
(組合員の購読料は、組合費に含む)

2024年1月20日
第758号

JR東労組ホームページは
←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

組織拡大 続々

定期大会(6.12)以降

盛岡 3名	6名	大宮
秋田 2名	3名	千葉
仙台 6名	1名	東京
バス東北 1名	5名	横浜
(仙台1名)	(水戸1名・東京3名・大宮1名)	バス関東

職場で困っている事はありませんか?一人でも悩まず相談してください!
JR東労組に結集しよう!



JR東労組「第50回定期中央委員会」
2月9日(金) 場所 目黒さつきビル2階会議室

議題

- (1) 第42回定期大会以降の経過と当面の取り組みについて
- (2) 労働協約・協定の締結承認について
- (3) 2024年度暫定予算(案)について
- (4) その他

令和6年能登半島地震 支援カンパの取り組み

JR総連の取り組みに賛同しJR東労組としても被災した組合員が安心して生活できるようにカンパを取り組みます。集まったカンパはJR総連から該当する単組を通じて、被災した組合員に全額手渡します。

皆様のご協力をお願いします!

- 期間 2024年2月23日(金)まで
- 対象者 組合員・OB会員
- 金額 一人500円を目安

2024 JR総連春闘スタート!

24春闘勝利へ向け、組織を強化・拡大し、職場の努力に報いない経営姿勢を突破しよう!!

23春闘では、3年ぶりのペア有額回答、純ペアではJR発足以降6番目の水準となる回答でしたが、要求額には届かず、また、ペアに差がつくなど課題が残りました。

「融合」連携などの施策により、私たちの労働密度は年々高まっています。また、実質賃金が20ヵ月連続マイナスとなるなど、上昇し続ける物価高に賃金が追いついていません。こうした中、現場の努力により、第3四半期の鉄道営業収入や年末年始の利用状況では、コロナ禍前比9割超を回復し業績は大幅に回復しています。しかし1月5日、経済3団体主催の年頭の会合では、各企業が大幅賃上げに積極的と言及する中、JR東日本は「賃上げ率は23年の水準かそれ以上も検討」と消極的な姿勢でした。また昨年の12月20日には、会社から「賃上げ(ペア)と夏季手当の議論を今後は同時期に議論したい」という主旨の提案がされ、賃上げと手当を混同させることで賃金引き上げへの意識を形骸化する狙いや、団体交渉の回数を減らし職場が団結する場面をつくらせないなど様々な狙いが見え隠れします。

賃上げを要求して団体交渉で議論できるのは労働組合だけです。春闘とは?賃金とは?定期昇給とベースアップの違いとは?会社の狙いとは?など、職場現実や生活実態に照らし合わせ、組合員のみならず未加入者の皆さんも一緒に議論し、何をなすべきか考え、共に行動することが大切です。その前提となる春闘や賃上げの必要性などについて振り返ります。



- ◆産別組織は自動車総連、電力総連など業種毎にある。JR東労組は「JR総連」に加盟。
- ◆JR総連は、連合方針と、加盟する単組(JR北海道労組、東労組、東海労、西労、貨物労組など)の賃金実態を加味して「JR総連春闘」としての統一方針を決定する。

◆定期昇給・ベースアップの必要性

一般的に、経験年数が長いほど物事を多角的に捉え、臨機応変に対処できるようになります。そのような要素などを加味して、毎年賃金が上がる仕組みが「定期昇給」です。

一方、物価上昇による「生計費の上昇」や、仕事をより短時間で済ませるようになるなどの「生産性向上」などの要素を加味して基本給を底上げする仕組みが「ベースアップ(ペア)」です。ペアは、毎年の春闘でその都度要求し、団体交渉を経て決められます。なお、定期昇給がない年齢となった場合はペアでしか賃金が上がりません。

【定期昇給】 (一般的イメージ図)

【ベースアップ】 (一般的イメージ図)

◆政府や経済界の目的を見抜き、組織強化・拡大で経営姿勢を突破しよう!

経団連は、24春闘での経営側の方針を「ペア」も有力的な選択肢「前向きに検討」としました。しかし経団連の目的は、デフレ脱却のために個人消費を増やすことです。これまでの春闘で経団連は、固定費の増加につながる賃上げを否定し、「ペアは論外」と主張してきました。そのため賃金は目減りし、30年間デフレが続いてきたことを忘れてはなりません。24春闘は政府や企業が経済施策としてデフレから脱却するためにペアが必要であり、物価高で苦しむ労働者の生活を考えるのが主眼ではないことを認識する必要があります。職場の努力に報いない経営姿勢を突破するために、JR東労組の組織強化・拡大の実践を、全組合員で行いましょう!

先日、近所の神社に初詣に行った。その足で散歩していると、郷土文化資料館という施設を見つけた▼地元の歴史・文化・伝統を紹介しており、当時の暮らしの変遷やその地域の歴史が展示されていた。その中でも特に印象的だったのが、常設展示として行われている「東京空襲体験画展」だ▼東京空襲を体験した人によって描かれた体験画や当時の状況の解説が綴られていた。そこで描かれているものや当時の体験談の生々しさ、悲惨さに胸を締め付けられる思いで展示を見た▼体験者の方々も癒やし難い記憶ではあるものの、平和を願う思いや真実を知ってほしいという思いから自身の体験を後世へと伝えていくために当時の体験を記したとも書かれていた▼こういった辛い体験を後世へ語り継ぐために残されている思いとは裏腹に、今の世界の情勢と軍事大国化の道を辿る日本を見ると、いつ戦争が起きてもおかしくない状況となっている▼戦争が起きれば私たちがどうなるのかは歴史から見ても明らかである。今こそ私たち一人ひとりが何をすべきかを考え、行動していく一年にしなければならぬ。

(H・E)